授業科目名	子ども家庭福祉	単位数	2
担当教員名	伊藤　わらび	担当形態	単独
実務内容 （実務家教員の場合）			

「学位授与の方針」との関係

本科目は、問題が生起する現場において、専門知や統合知を使い、解決のために実践しようとする気概の助長を担うべきものある。

共生社会創造の目的のために、絶えず学び続ける意欲を持つこと。

授業の到達目標及びテーマ

（１）児童の健全な育成を阻む様々な問題について理解する。

（２）児童福祉の歴史と児童の権利保障への経緯について理解する。

（３）児童福祉の法律及び行財政の仕組みについて理解する。

（４）児童の多様なニーズと子ども家庭福祉サービスについて理解する。

（５）子ども家庭福祉を担う人々の様々な専門性について理解する。

授業の概要

児童は、人類の歴史において、長い間無権利の存在であった。第二次世界大戦後、わが国では日本の復興に対する大人たちの悲願として 1947 年児童福祉法が制定され、さらにそれを強固なものとするために児童憲章が宣言された。一方、地球規模において世界の子ども達の幸福と発達する権利を実現するために、1989 年 11 月国連において、人類史上画期的な「子供の権利条約」が採択された。2016 年児童福祉法の理念が子どもの権利条約の精神に基づき改正された。このような法律、条約の制定が即子ども達の人権の保障にはなっていない。日本の社会において、また、世界の子ども達の心身の健やかな成長を阻む様々なニュースを耳にしない日はない。子ども達の人権を守るために大人達の不断の努力が求められている。

本授業は、日本の児童福祉を中心に、次代の社会を担う子ども達の福祉の実現のために実施されている多様な児童福祉サービスについて学習する。教科書は、理解しやすい内容となっているが、受講生は、常日頃子ども達を取り巻く様々な問題に関心を持ち、一方、少子高齢社会における児童福祉に関する法律、制度の制定や改正、及び新たな児童福祉サービスについて関心を持ち常に学んで頂きたい。

授業計画

第１回：子ども家庭福祉の概念

第２回：児童を取り巻く状況（児童の問題）

第３回：児童を取り巻く状況（新たな施策）

第４回：児童の権利保障

第５回：国内、国外の取り組み

第６回：児童福祉の歴史（アメリカとイギリス）

第７回：児童福祉の歴史（日本）

第８回：子ども家庭福祉行政の仕組み

第９回：子ども家庭福祉等機関

第１０回：児童福祉施設

第１１回：在宅子ども家庭福祉サービスの実際

第１２回：子ども家庭福祉に関連する地域活動
第１３回：子ども家庭福祉サービスを支える人々（各種施設・機関）
第１４回：子ども家庭福祉サービスを支える人々（地域）
第１５回：まとめ
定期試験

スクーリングでの学修内容

　スクーリングでは、日本の子ども家庭福祉を中心に、次代の社会を担う子どもたちの福祉の実現のために実施されている多様な子ども家庭福祉サービスについて学習する。教科書は理解しやすい内容となっているが、受講生は、子ども達を取り巻く様々な問題に関心を持ち、一方、少子高齢社会における児童福祉に関する法律、制度の制定や改正、及び新たな子ども家庭福祉サービスについて常に学んで頂きたい。

教科書

（１）山縣 文治 (編集)『よくわかる子ども家庭福祉　新版』ミネルヴァ書房　２０１９年

参考文献

（１）ミネルヴァ書房編集部編「社会福祉小六法 2022」ミネルヴァ書房　※毎年発行
（２）北島 英治ほか（編著）「児童福祉論」ミネルヴァ書房
（３）保育士養成講座編纂委員会（編）「児童福祉」全国社会福祉協議会
（４）内閣府（編）「子ども・若者白書」
（５）日本子どもを守る会（編）「子ども白書」草土文化
（６）全国保育団体連絡会・保育研究所（編）「保育白書」ちいさいなかま社
（７）内閣府（編）「少子化社会対策白書」
（８）ユニセフ（編）「世界子供白書」ユニセフ
（９）社会福祉の動向編集委員会（編）「社会福祉の動向」中央法規
（１０）ユニセフ（編）「わたしの権利みんなの権利　It’s Only Right-“児童の権利に関する条約”を学ぶための実践ガイド」ユニセフ

学生に対する評価

スクーリング評価（２５％）、レポート評価（２５％）、科目修得試験（５０％）を総合して評価する。